

季節的な反動減と物価高が重なり 景況感是一段と悪化

- ★ 「当面の経営上の問題点（複数回答）」について、1位が「原材料価格の上昇」の154社。2位が「需要の停滞」の116社。「原材料費・人件費以外の経費の増加」が63社で3位。
- ★ 「現在の雇用人員」について、141社（59.0%）が「適正」と回答。一方で、「不足」と回答したのは94社（39.3%）と人手不足感が続いている。「過剰」と回答したのはわずか4社（1.7%）。
- ★ 「賃上げの実施」について、「4月に実施する」が24.1%（56社）、「5月以降、実施する予定」が16.4%（38社）と約4割が賃上げを実施予定。逆に「実施しない」は27.6%（64社）。31.9%（74社）は「検討中」と回答。

令和8年 1 3 三次商工会議所管内（旧三次市）景況調査【概要】

三次商工会議所

令和8年3月に実施した第144回三次商工会議所管内（旧三次市）景況調査の結果は次のとおり。
本調査は、三次商工会議所管内（旧三次市）の企業を対象に四半期ごとに実施するもので今回が144回目。
市内の480事業所を抽出し、集計企業数は246社（小売業71社、卸売業21社、製造業32社、建設業59社、運輸・交通業15社、観光・サービス業48社）で回収率は51.3%。

【概況】

今期（1～3月）の調査結果を見ると、自分の事業所の状況をどう見ているかを示す業況DIは、全業種平均で▲22.0と、3ヶ月前の前回調査から8.1ポイント悪化した。業況が「かなり好転」と答えた事業所が0.4%、「やや好転」が15.5%で、逆に「やや悪化」が28.2%、「かなり悪化」が9.8%だった。売上DIは▲8.0から6.8ポイント悪化して▲14.8、採算DIも11.2ポイント悪化し▲32.7となり、収益環境は一段と厳しさを増している。さらに、原材料（商品）仕入価格DIは67.9と上昇しており、コスト負担の増加が経営を圧迫している。

今回、事業所に対し「賃上げの実施について」を尋ねたところ、「4月に実施する」が24.1%、「5月以降数カ月以内に実施する予定」が16.4%となり、合わせて約4割が賃上げに前向きな姿勢を示した。一方で、「実施しない」は27.6%、「まだ検討中」は31.9%となっており、対応が大きく分かれる結果となった。

賃上げを「実施しない」または「検討中」とした理由としては、「先行きが不透明なため」が最も多く、次いで「原材料費の高騰によるコスト増」、「売上が減っている、または増えてないため」などが挙げられた。加えて、「賃上げ原資の確保が難しい」、「エネルギーコストの高騰」などの回答も見られ、厳しい収益環境の中で賃上げに踏み切れない事業者が多い実態が浮き彫りとなった。

物価高騰の長期化と価格転嫁の難しさに加え、人手不足を背景とした人件費の増加など、複合的な要因が経営を圧迫している。さらに、今後は中東情勢の緊迫化、特にイランを巡る動向による原油価格の上昇が懸念されており、エネルギーコストのさらなる増加を通じて、地域経済への影響が一段と強まる可能性がある。

とりわけ当地域においては、小規模事業者の割合が高く、価格転嫁力や資金余力に限りがあることから、コスト増加の影響を受けやすく、今後も厳しい経営環境が続くものと見込まれる。

※ DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断状況を示す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものでなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

業況DI (好転割合) — (悪化割合)

売上DI (増加割合) — (減少割合)

採算DI (好転割合) — (悪化割合)

業況は、全業種合計で今期▲22.0。業種別では、運輸・交通業を除く5業種で悪化しており、特に製造業は3.0→▲21.9へと大きく後退した。

売上は、全業種合計で今期▲14.8。建設業を除く5業種で悪化している。悪化したと回答した88社のうち、27社が「景気の低迷（後退）」、23社が「季節的な減少」を理由に挙げた。

原材料(商品)仕入価格は、全業種合計で前期比15.2ポイント上昇し、今期は67.9。先行き見通しは70.0となっており、原油価格高騰の影響が今後も続くと思込まれる。

採算は、全業種合計で今期▲32.7。業種別では、卸売業を除く5業種で悪化した。ただし、DI値は卸売業が▲57.1と6業種の中で最も悪く、全体として厳しい状況が続いている。採算悪化の主な要因は「売上の減少」と「売上原価（仕入・原材料費）の上昇」。

【当面の経営上の問題点】(上位三項目・複数回答)

・原材料価格の上昇		154社
・需要の停滞		116社
・原材料費・人件費以外の経費の増加		63社

【4月に賃上げを実施しますか？または、5月以降、数カ月以内に実施する予定ですか？】

・4月に実施する		56社(24.1%)
・5月以降に実施する予定		38社(16.4%)
・実施しない		64社(27.6%)
・まだ検討中		74社(31.9%)

【上記質問で「実施しない」「まだ検討中」と回答した理由は？(2つ以内)】

・先行きが不透明なため		56社
・原材料費等の高騰によるコスト増		49社
・売上が減っている、 または増えていないため		46社
・賃上げ原資の確保が難しいため		22社
・電気代や燃料費などの エネルギーコストの高騰		19社
・人件費負担が増えるため		16社
・雇用を維持するだけで 精一杯なため		13社
・その他		12社
・価格転嫁が困難であるため		6社
・借入金返済を優先するため		3社

※百分率は有効回答数を分母として算出

【業況DI】

	前期に比べ	来期見通し
全業種	▲ 22.0	▲ 26.9
小売業	▲ 22.9	▲ 25.7
卸売業	▲ 47.6	▲ 28.6
製造業	▲ 21.9	▲ 34.4
建設業	▲ 13.6	▲ 37.3
運輸・交通	▲ 6.7	▲ 20.0
サービス業	▲ 25.0	▲ 12.5

(好転割合－悪化割合)

【売上DI】

	前期に比べ	来期見通し
全業種	▲ 14.8	▲ 16.9
小売業	▲ 21.7	▲ 21.7
卸売業	▲ 47.6	▲ 19.0
製造業	▲ 6.3	▲ 18.8
建設業	▲ 6.8	▲ 27.1
運輸・交通	▲ 6.7	▲ 13.3
サービス業	▲ 8.5	4.3

(増加割合－減少割合)

【採算(営業利益)DI】

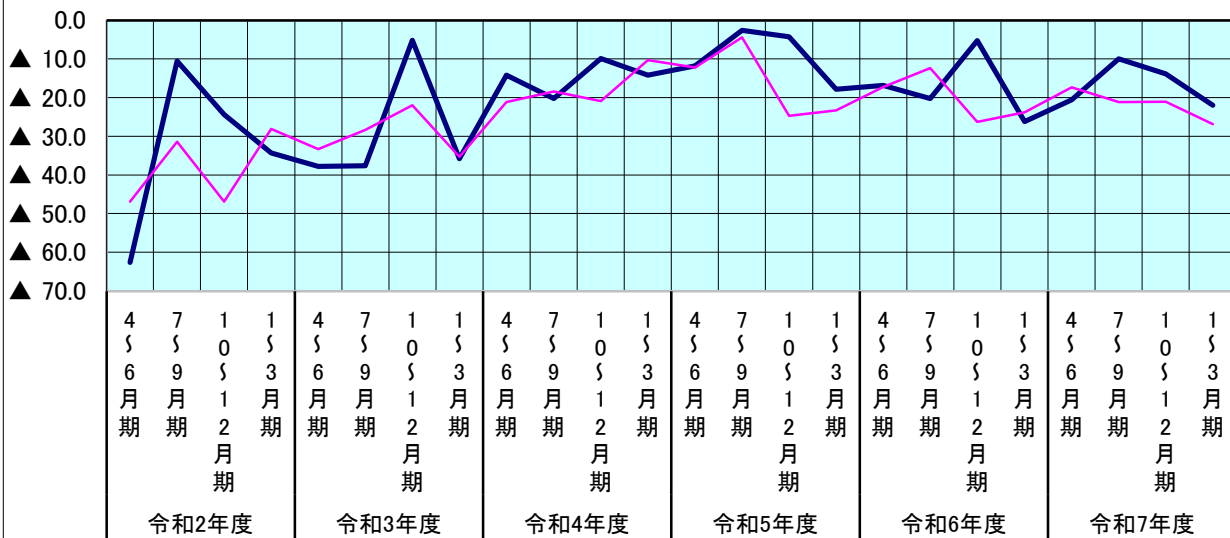
	前期に比べ	来期見通し
全業種	▲ 32.7	▲ 36.3
小売業	▲ 32.9	▲ 34.3
卸売業	▲ 57.1	▲ 47.6
製造業	▲ 15.6	▲ 34.4
建設業	▲ 28.8	▲ 39.0
運輸・交通	▲ 20.0	▲ 40.0
サービス業	▲ 41.7	▲ 31.3

(好転割合－悪化割合)

全業種

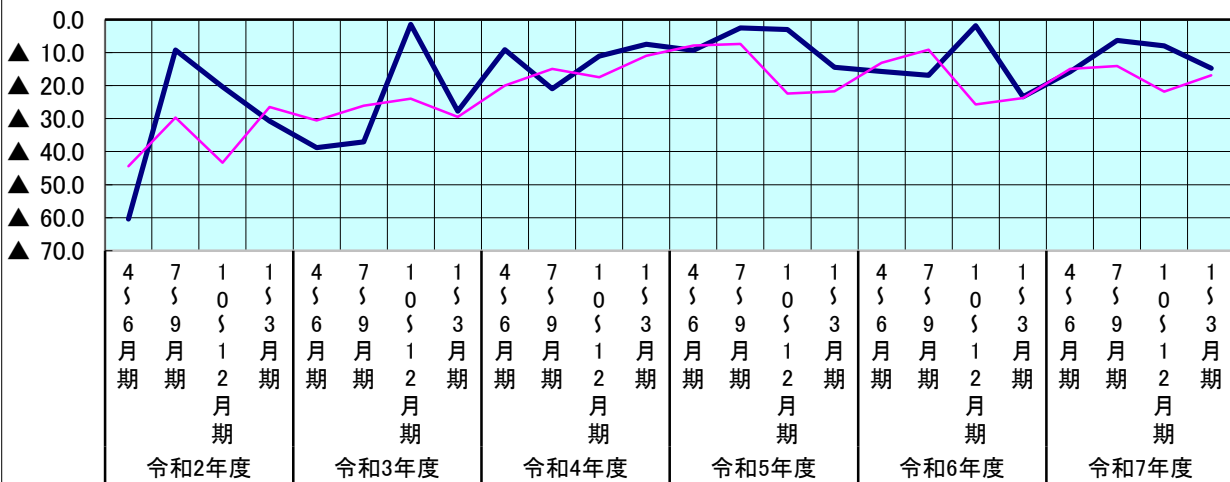
業況D.I.の推移

前期比 来期見通し



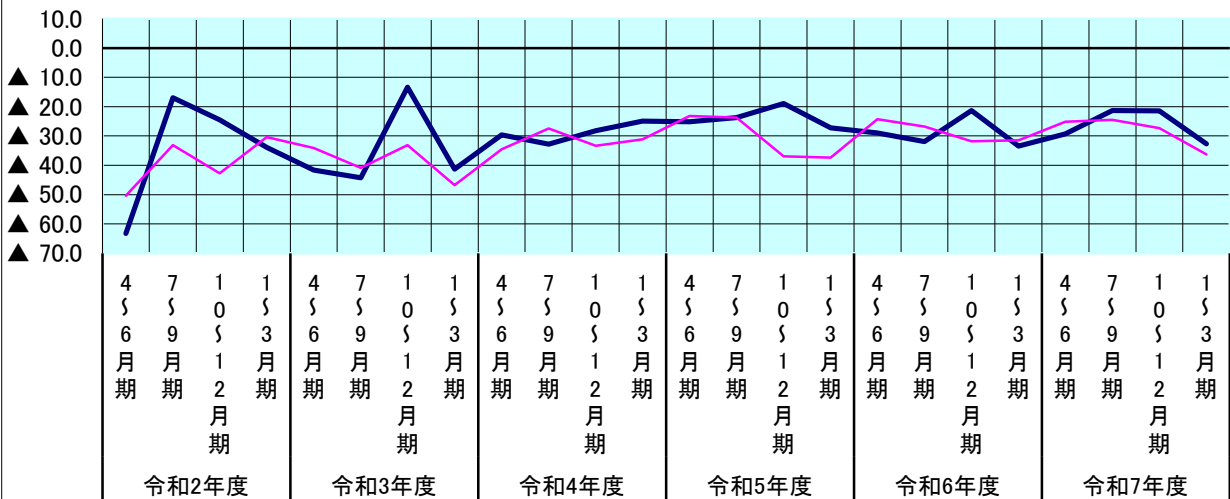
売上D.I.の推移

前期比 来期見通し



採算D.I.の推移

前期比 来期見通し



【景気天気図】

業 種	項 目	業 況	売 上	採 算
小 売 業	1 月 ～ 3 月 実 績			
	4 ～ 6 月 見 通 し			
卸 売 業	1 月 ～ 3 月 実 績			
	4 ～ 6 月 見 通 し			
製 造 業 (工 業)	1 月 ～ 3 月 実 績			
	4 ～ 6 月 見 通 し			
建 設 業	1 月 ～ 3 月 実 績			
	4 ～ 6 月 見 通 し			
運輸・交通業	1 月 ～ 3 月 実 績			
	4 ～ 6 月 見 通 し			
観 光 サービス業	1 月 ～ 3 月 実 績			
	4 ～ 6 月 見 通 し			

景 気 天 気 図 の 説 明



大変良い



良い



まあまあ



少し悪い



悪い



大変悪い